

栗田工業株式会社

2026年3月期第1四半期 決算説明会

(証券コード：6370)

2025年8月7日



© KURITA WATER INDUSTRIES LTD. All Rights Reserved.

1Q決算サマリー



2026年3月期 1Q実績

売上高：△ 2% 事業利益：△ 5% CSVビジネス売上高：+ 10%
一時的な押し下げ要素があったが、通期計画には影響せず

電子

- 主に前期に中国の大型装置案件の売上があった反動で減収・減益
- 関税引上げ動向の注視から半導体関連の設備投資や工事進捗に弱さが出たが、足元では回復の動き

一般 水処理

- 為替影響を受けても増収となった一方、バイオガス発電関連の追加コストが発生
- 一部地域で景況感の停滞が見られるも、CSVビジネスはニーズを捉え着実に拡大

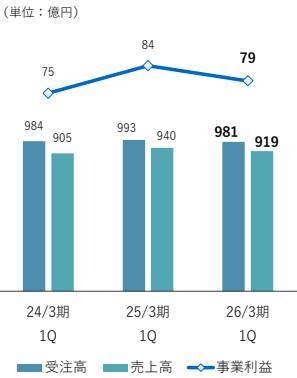
トピックス

- 2025年5月8日開催の取締役会決議に基づき自己株式取得を実施し、7月9日までに2,792,500株を取得完了（取得価額総額150億円）
- 1Q決算より欧米の電子装置事業の業績を一般セグメントから電子にセグメント変更し、2025年3月期実績を遡及修正

業績概要



(単位：億円)		2025/3期 1Q実績	2026/3期 1Q実績	前期差	前期比	2026/3期 上期予想 (5/8発表)
受注高		993	981	△ 12	△ 1.2%	2,050
売上高		940	919	△ 21	△ 2.2%	2,020
事業利益		84	79	△ 5	△ 5.4%	240
事業利益率		8.9%	8.6%	△ 0.3pp	—	11.9%
その他の収支		3	9	+ 6	—	△ 2
営業利益		86	88	+ 2	+ 1.9%	238
税引前四半期利益		87	86	△ 1	△ 1.1%	233
親会社の所有者に帰属する四半期利益		57	56	△ 1	△ 1.1%	158
基本的1株当たり当期利益 (円)		50.74	50.84	+ 0.10	+ 0.2%	143.45
為替 レイト	USD (円)	155.9	144.6			140.0
	EUR (円)	167.9	163.8			160.0
	CNY (円)	21.5	20.0			20.0



業績概要

当四半期は、多くの通貨で為替が円高に推移したことから、前年同期と比べ、受注高・売上高がともに減少しましたが、為替影響を除けば、どちらも10億円程度の増加となっています。

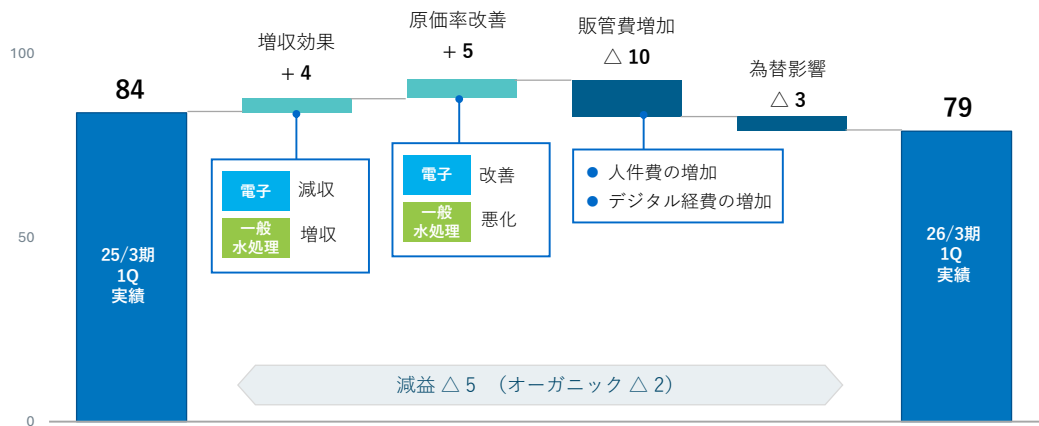
事業利益は、為替影響を除いても減益となりました。
一般水処理セグメントにおいて、バイオガス発電関連で運転管理の効率化や安定化を実現するための、設備増強等の対策を行ったことで、追加コストが発生し、減益に影響しました。

その他の収支の増加は、水供給サービスを提供しているお客様との一部の契約を解除したことに伴い、一時的な収益を計上したためです。

事業利益の増減要因（前年同期比）



(単位：億円)



事業利益の増減要因（前期比）

増収となったことに加えて、追加コストがあっても原価率は改善しましたが、販管費の増加と為替影響をカバーできず、減益となりました。

(単位：億円)	2025/3期 1Q実績	2026/3期 1Q実績	前期差	2026/3期 上期予想 (5/8発表)
受注高	383	380	△ 3	920
装置	74	69	△ 4	358
継続契約型サービス	119	132	+ 13	254
サービス	190	178	△ 12	308
薬品	30	28	△ 2	59
精密洗浄	72	65	△ 7	138
メンテナンス	88	86	△ 3	111
売上高	445	418	△ 27	960
装置	189	144	△ 45	423
継続契約型サービス	119	132	+ 13	254
サービス	136	142	+ 5	284
薬品	29	28	△ 1	59
精密洗浄	70	65	△ 6	138
メンテナンス	37	50	+ 12	86
事業利益	44	43	△ 1	120
事業利益率	9.9%	10.3%	+ 0.3pp	12.5%
営業利益	45	48	+ 3	120

装置

- 受注高は中国・韓国での大型案件の受注を2Q以降に見込むことから、前年同期と同水準の実績
- 売上高は前期に中国で複数の大型案件の売上計上があった反動により減収

継続契約型サービス

- 前期の2Qからサービスを開始した水供給案件が寄与

精密洗浄

- 海外が為替と顧客の稼働状況の影響により減収

メンテナンス

- 売上高は主に日本と中国で受注残からの工事進捗により増加

オーガニック増減	△ 10億円
為替影響	△ 17億円

水供給契約解除に伴う一時的な収益計上

※ 当1Qから欧米の電子装置事業の業績を一般セグメントから電子にセグメントに変更したことに伴い、2025年3月期実績も遡及修正しています。

電子セグメントの業績

受注高は前年同期と比べ微減となりました。

装置事業は、米国の関税引き上げの動向が不透明な状況を受け、半導体関連の投資に弱さが見られ、前年同期並みとなりました。

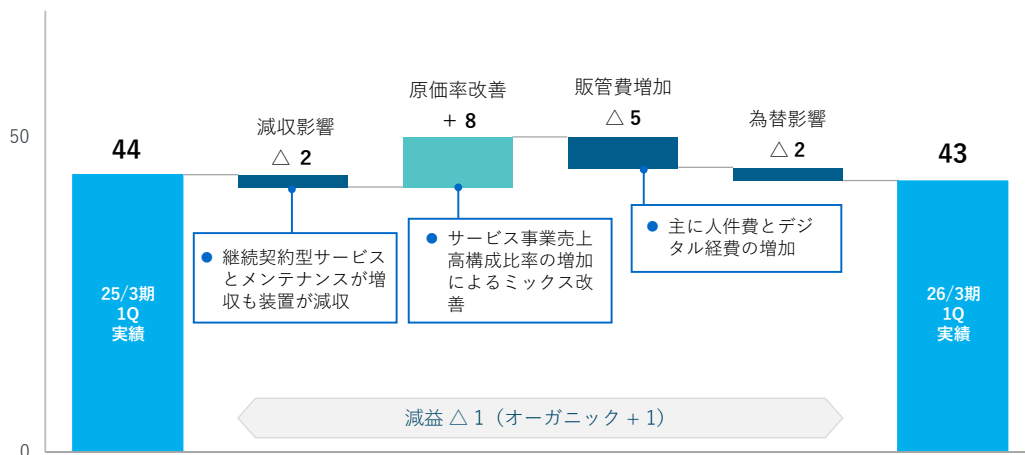
しかしながら、足元では回復の動きが見られており、第2四半期以降は、各エリアで大型案件の受注が見込まれており、特に韓国では大型プロジェクトが進行しています。

売上高は、主に、装置事業で前年同期に中国で大型案件が複数あった影響により、減収となりました。

米国の関税動向の様子見ムードは工事進捗にも見られ、上期計画に対してはスロースタートとなりました。

なお、精密洗浄の減少は、為替影響に加え、クリーンルームの清掃サービス等が減少したことによるものです。

(単位：億円)



電子セグメントにおける事業利益の増減分析

為替影響もあり減益となりましたが、サービス事業、特に継続契約型サービスの増収が、事業のミックス改善による原価率改善につながり、減収影響と販管費の増加をカバーしました。

(単位：億円)	2025/3期 1Q実績	2026/3期 1Q実績	前期差	2026/3期 上期予想 (5/8発表)
受注高	609	601	△ 9	1,130
装置	78	75	△ 3	147
継続契約型サービス	32	37	+ 6	59
サービス	500	488	△ 12	925
薬品	290	286	△ 4	593
メンテナンス	179	184	+ 5	273
その他	31	17	△ 13	59
売上高	495	502	+ 6	1,060
装置	54	59	+ 4	130
継続契約型サービス	27	30	+ 3	61
サービス	414	413	△ 1	869
薬品	285	281	△ 5	594
メンテナンス	109	114	+ 5	233
その他	19	18	△ 1	42
事業利益	39	36	△ 3	120
事業利益率	8.0%	7.3%	△ 0.7pp	11.3%
営業利益	42	41	△ 1	118

装置

- 受注高は前年同期に北米で官公需向け案件の獲得が好調であった反動により減少
- 売上高は主に日本における工事進捗により増収

継続契約型サービス

- CSVビジネスの拡大により増収

薬品

- 為替影響を除くと受注高・売上高ともに増加
- ASEAN地域で景況感悪化の影響を受けるも、CSVビジネスの増加が貢献

その他

- 前期に土壌浄化の大型案件を受注した反動で受注高が減少

オーガニック増減	+ 20億円
為替影響	△ 14億円

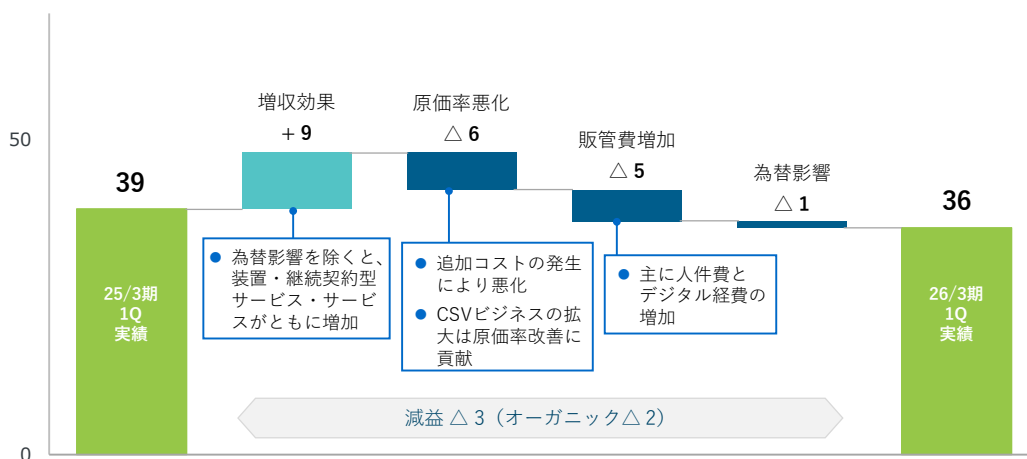
※ 当1Qから欧米の電子装置事業の業績を一般セグメントから電子にセグメントに変更したことに伴い、2025年3月期実績も遡及修正しています。

一般水処理セグメントの業績

受注高は、その他に含まれる土壌浄化で前年同期に大型案件の受注があった反動により、減少しました。

売上高は、円高の影響がある中でも増収となりました。
前期の下期から引き続き、ASEAN地域で一部産業に弱さが見られましたが、薬品を中心にCSVビジネスの展開が進みました。

（単位：億円）



一般水処理セグメントにおける事業利益の増減分析

主に、原価率が悪化したことが、全体の減益に影響しました。

CSVビジネスの売上の拡大は、原価率に改善効果をもたらしましたが、バイオガス関連の追加コストの発生に加え、比較的収益性の高いASEANでの薬品の売上の減少や、北米の官公需向け装置が、好調だった前年同期と比較して減少したことも押し下げ要因となりました。

CSVビジネス



CSVビジネス売上高

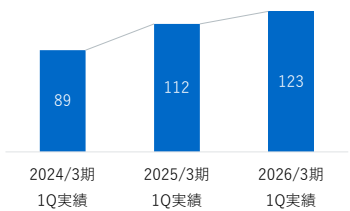
(単位：億円)	2025/3期 1Q実績	2026/3期 1Q実績	前期差	2026/3期 通期予想 (5/8発表)
全社連結	112	123	+ 11	555
電子	33	25	△ 8	115
一般水処理	79	98	+ 19	440

CSVビジネスモデル数

	2025/3末	2025/6末	前期差
全社連結	96	114	+ 18

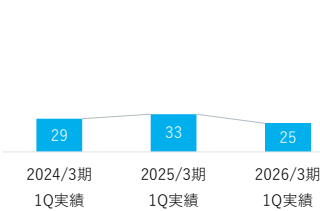
CSVビジネス売上高(全社連結)

(単位：億円)



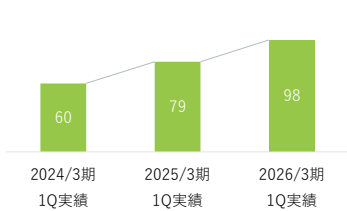
CSVビジネス売上高(電子)

(単位：億円)



CSVビジネス売上高(一般水処理)

(単位：億円)



CSVビジネスの実績

電子セグメントは、前期の第4四半期にCSVビジネスから除外したモデルがあったことから、減少となりましたが、一般水処理セグメントでは、各地域で着実に売り上げを拡大しています。

なお、収益性についても、引き続き、全体よりも10%ポイント以上高い水準を確保できています。

地域別売上高



全社連結

(単位：億円)	2025/3期 1Q実績	2026/3期 1Q実績	前期差	2026/3期 上期予想 (5/8発表)
日本	424	455	+ 31	979
アジア	252	210	△ 42	446
北南米	172	161	△ 11	398
EMEA	91	93	+ 1	197
合計	940	919	△ 21	2,020

- 電子
- 日本 (+)
前期2Qから開始の水供給案件の寄与
 - アジア (-)
前年同期に中国で大型装置の売上計上が複数あった反動
- 一般
水処理
- 日本 (+)
メンテナンスや継続契約型サービスが増加
 - 北南米 (-)
為替影響および前年同期に官公需向け装置案件の売上計上が高水準であった反動

電子

(単位：億円)	2025/3期 1Q実績	2026/3期 1Q実績	前期差	2026/3期 上期予想 (5/8発表)
日本	186	200	+ 14	434
アジア	199	155	△ 45	335
北南米	50	54	+ 4	167
EMEA	10	9	△ 1	24
合計	445	418	△ 27	960

一般
水処理

(単位：億円)	2025/3期 1Q実績	2026/3期 1Q実績	前期差	2026/3期 上期予想 (5/8発表)
日本	238	255	+ 17	545
アジア	53	56	+ 3	111
北南米	122	107	△ 15	231
EMEA	82	84	+ 2	173
合計	495	502	+ 6	1,060

※ 当1Qから欧米の電子装置事業の業績を一般セグメントから電子にセグメント に変更したことに伴い、2025年3月期実績も遡及修正しています。

地域別売上高

地域別売上高はスライドの通りです。

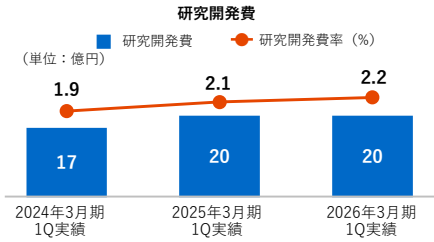
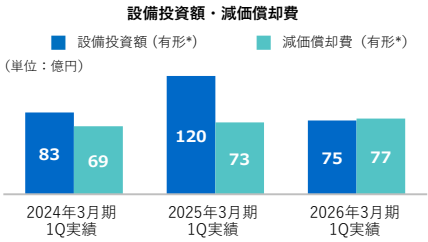
設備投資額・減価償却費・研究開発費



(単位：億円)	2025/3期 1Q実績	2026/3期 1Q実績	前期差	2026/3期 予想 (5/8発表)
設備投資額（有形*）	120	75	△ 45	229
減価償却費（有形*）	73	77	+ 4	325
研究開発費	20	20	+ 0	80

* 使用権資産含む。

- 設備投資額は、水供給サービスおよび精密洗浄事業向けの投資が前年同期比で減少
- 減価償却費は、前期2Qから新しい水供給サービスが開始したことに伴い前年同期比で増加
- 研究開発費は、イノベーション創出を目的に増強した前年同期の水準を維持



設備投資額、減価償却費、研究開発費

いずれも、通期計画に対して想定線で推移しています。



将来見通しに関する注記事項

本資料に掲載されている見通し数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

本資料内で使用している製品・サービス名およびロゴは、当社または他社の商標または登録商標です。

説明は以上です。

第1四半期は、電子セグメントでは、米国の関税動向の不透明感を背景に、半導体関連の投資や工事進捗に弱さが見られ、また、一般水処理セグメントでは、追加コストも発生しました。

ただ、これらの要素はすでに改善されており、半導体の生産増強の需要は引き続き強く、また、CSVビジネスも順調に積み上がっていることから、通期計画の目線は維持できると考えています。

第2四半期からスピードを上げて、通期計画の達成に向け、邁進してまいります。

ご清聴ありがとうございました。